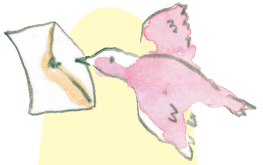

バングラデシュに恋して

私たちにあまり馴染みのない南アジアの国、バングラデシュを紹介します。

vol.14

テロを生み出した時代背景①

7月1日、バングラデシュの首都ダッカで起きた過激派組織「イスラム国」によるテロ事件で7人の日本人が殺害されました。この事件で私が受けたショックは非常に大きく、今も哀しみの中にいます。このコラムもなかなか書けませんでした。しかし、私が恋したバングラデシュはそういう哀しみも含めた国なのかもしれません。

多くのバングラデシュ人はとても親切で、私達日本人のことも大好きです。まさかバングラデシュで日本人がテロの標的になるなんて考えたこともありませんでした。イスラム国家が標的にしている「十字軍」と日本人は一線を画すと考えていたし、日本人はこの国でとても愛されていると慢心していたのです。しかし、その安心感と逆行するように、必ずこの国でテロが起こるだろうという確信はありました。そういう時代の臭いがダッカには充満していたのです。

大学を卒業したインテリな若者のプライドを満たせるものがこの国にはあまりにも存在していません。ダッカの街はリキシャー引きや物売りの男性でごった返しています。そのような仕事を大学卒の若者は蔑視していますが、いつしか生きるために彼らもリキシャー引きになってしまいます。

私の友人S君はダッカ大学（バングラデシュの東大）を卒業したエリートで、海外労働者としてイタリアで働く予定でした。彼の両親は渡航費を捻出するため全ての田畑を売り払いました。しかし、その大切なお金は仲介業者に持ち逃げされ、今、彼はバングラデシュの小さなホテルで掃除人をしています。勿論、その仲介業者は今も行方不明で、被害届を出した警察からは何の連絡もありません。S君はもうとっくに自分の人生を諦めています。この国で、業者と警察の癒着は日常茶飯事なのですから。

（つづく）

ホテルで働くS君

鶴田 素子さん

八代市のローズマリー紅茶店オーナー。50歳で大学院に再入学し、開発経済学を専攻。途上国の貧困削減のためフェアトレードを推進する。

ホームページでも見れます！

ローズマリー 八代　検索

ご感想お待ちしてます！